

標準委員会 第38回基盤応用・廃炉技術専門部会議事録

1. 日時 2018年02月26日(月) 13:30~15:50

2. 場所 5東洋海事ビル A+B 会議室

3. 出席者(敬称略)

(出席委員) 萩原(部会長), 堺(幹事), 伊藤, 小野, 北島, 坂本, 佐々木, 佐田, 田中(健), 日比, 平野, 松本, 吉田(13名)

(代理委員) 小菅史明(伊藤忠テクノソリューションズ/石川代理), 梶谷 幹男(原子力バックエンド推進センター/宮坂代理)(2名)

(欠席委員) 岡本, 木藤, 越塚, 山口(4名)

(委員候補) 田中正暁(シミュレーション信頼性分科会代表/日本原子力研究開発機構)(1名)

(説明者) 【風洞実験実施基準分科会】佐田副主査, 【廃止措置分科会】田中幹事(2名)

(事務局) 中越, 田老, 谷井(3名)

4. 配付資料

ATC38-0 議事次第

ATC38-1 前回議事録(案)

ATC38-2 人事について

ATC38-3 「有効高さ評価モデル分科会」の廃止および「風洞実験実施基準分科会」への統合について

ATC38-4-1 分科会の活動状況について

ATC38-4-2 標準策定5カ年計画

ATC38-4-3 標準委員会 用語辞典WGの状況報告について

ATC38-5-1 「廃止措置の基本安全要件」に係る技術レポートの策定(中間報告資料)

ATC38-5-2 「廃止措置の基本安全要件」(案)

ATC38-6-1 「実用発電用原子炉施設の廃止措置の計画:20XX」の改訂(中間報告資料)

ATC38-6-2 「実用発電用原子炉施設の廃止措置の計画:20XX」(案)

参考資料

ATC38-参考1 基盤・応用技術専門部会委員名簿

ATC38-参考2 標準委員会の活動状況

ATC38-参考3 基盤・応用技術専門部会出席実績

5. 議事内容

事務局から開始時点で委員19名中, 15名の出席があり, 委員会成立に必要な委員数(13名以上)を満足している旨, 報告があった。

(1) 前回議事録(案)の確認(ATC38-1)

前回議事録(案)について事前に配付されていた内容で承認された。

(2) 人事について(ATC38-2)

事務局からATC38-2に基づき, 専門部会及び分科会の人事について下記の提案があり, 専門部会委員の退任等が確認され, 審議の結果, 専門部会委員(分科会代表者)の選任等が決議

された。更に、石川智之（伊藤忠テクノソリューションズ）委員再任（2018.05～2020.04）の承認についてのメール審議を行うことが決まった。

1) 専門部会

① 委員退任の確認

越塚 誠一（東京大学）2018.02.26

② 委員（分科会代表者）の選任決議

シミュレーションの信頼性分科会

田中 正暁（日本原子力研究開発機構）

2) 分科会

① 委員退任の確認

【シミュレーションの信頼性分科会】

佐々木 泰裕（関西電力）

【風洞実験実施基準分科会】

北林 興二（元 工学院大学）

② 委員選任の承認決議

【シミュレーションの信頼性分科会】

谷川 純也（関西電力）

(3) 【報告・審議】「有効高さ評価モデル分科会」の廃止および「風洞実験実施基準分科会」への統合について(ATC38-3)

風洞実験実施基準分科会の佐田副主査からATC38-3に基づいて、「有効高さ評価モデル分科会」の廃止および「風洞実験実施基準分科会」への統合について報告があった。審議の結果、今後、統合先の当該分科会名を名付け、主査を決定後、基盤応用・廃炉技術専門部会で提案することとなった。

主な質疑等は次のとおり。

C. 2つの分科会が1つになることに対して、新知見の収集も考慮し、必要に応じ、委員の補強を検討すること。

(4) 【報告・審議】「廃止措置の基本安全要件」に係る技術レポート(中間報告)（ATC38-5-1, ATC38-5-2）

廃止措置分科会の田中幹事からATC38-5-1, ATC38-5-2に基づいて、「廃止措置の基本安全要件」に係る技術レポートについて中間報告があった。審議の結果、当該案を標準委員会で中間報告することとなった。

主な質疑等は次のとおり。

Q1：5ヵ年計画で挙げられていなかったこの基本安全要件を新たに作成することにした理由はなにか。

A1：現在、廃止措置の計画関連で4種類の標準類を改訂又は新規に作成しているが、これらについて廃止措置の安全の確保について漏れのないようにするため、廃止措置の全般にわたる基本的な安全要求の制定が必要という認識に至り、分科会としてこれに対応することとしたものである。

Q2：他の標準類が継承する要件を定めるものが、技術レポートとして制定されることには違和感がある。なぜ、標準（Code）として制定しないのか。

A2：ご指摘の通り標準類の階層でいえば、廃止措置分野について最上位に位置するものが技術

レポートの位置づけでよいかという議論は分科会でも当然あった。原子力学会標準委員会が定めている「原子力安全の基本的考え方」が技術レポートとして発行されていること、その要件を継承することから、これについても技術レポートとすることにした。また、分科会としての廃止措置の安全の確保のための意見表明という位置づけもある。

C:このような基本的な原則の発行の仕方について、標準委員会のレベルで検討する必要がある。専門部会としては、この技術レポートとしての発行については認めるが、今後の検討次第ではしかるべき形での発行に従うことを求める。

(5) 【報告・審議】 「実用発電用原子炉施設の廃止措置の計画：20XX」 中間報告（ ATC38-6-1, ATC38-6-2）

廃止措置分科会の田中幹事からTC38-6-1, ATC38-6-2に基づいて、「実用発電用原子炉施設の廃止措置の計画：20XX」について中間報告があった。審議の結果、当該案を標準委員会で中間報告することとなった。

主な質疑等は次のとおり。

C：技術レポートと計画の標準の両方で1つの説明資料とした方が煩雑さや関係の理解のしやすさなどから望ましい。

A：標準委員会へは1本にまとめて説明資料を作成する。

Q1：今回の改訂では、この計画標準では、廃止措置の計画の概要及び計画立案の道筋を示すのみであり、計画立案に必要な個別の要素技術は別に発行するという理解でよいか。

A1:そのような計画で整備を進めている。

(6) 【報告】 分科会の活動状況、標準策定5カ年計画について、“標準委員会 用語辞典WGの状況報告”（TC38-4-1, ATC38-4-2, ATC38-4-3）

各分科会代表等の関係者からTC38-4-1, ATC38-4-2に基づいて、分科会の活動状況及び“基盤応用・廃炉技術専門部会 標準策定5カ年計画（平成30年度版案）”について並び標準活動基本戦力タスク用語辞典WGの田中正暁委員からATC38-4-3に基づいて、標準委員会の用語辞典WGの状況について報告があった。

主な質疑等は次のとおり。

・標準策定の5カ年計画について、標準委員会としての品質保証の強化を進めるため、新知見の反映が着実に行われるように留意する方針が示された。

・また、5ヶ年計画の工程表の記入方法について、今後の長期的なマイルストーンの明確化、標準名の整合等の修正の上、標準委員会へ提出することとなった。

(7) その他

・次回第39回基盤応用・廃炉技術専門部会は、5月25日(金)午後から開催することになった。

以上